

教育委員会議会議録[詳細]は、市役所1号館2階の市政資料室で公開しています。

## 佐倉市教育委員会会議録[会議概要]

平成30年10月教育委員会会議：定例会

期 日 平成30年10月17日(水) 開会 午後2時00分  
閉会 午後2時46分

会 場 1号館3階会議室

出席委員 茅野 達也 教育長 関山 邦宏 教育長職務代理者  
小菅 広計 委員 菅谷 義範 委員  
熊倉 夏子 委員

傍聴者 なし

出席職員 教 育 長 茅野 達也(再掲) 教 育 次 長 花島 英雄  
教育総務課長 川島 淳一 学 務 課 長 久保田宜孝  
指 導 課 長 相蘇 重晴 教育センター所長 佐藤 和浩  
社会教育課長 高橋 慎一 文 化 課 長 鈴木 千春  
事 務 局 教育総務課教育総務班長 鈴木 康二 教育総務課教育総務班 千々岩和代

### 〈 会議概要 〉

#### 1 教育長開会宣言

#### 2 報告事項

##### ・教育長職務代理者より1件報告

10月15日、16日に山形市で文部科学省主催の平成30年度市町村教育委員会研究協議会に出席した。10月15日は、13時から17時まで文部科学省初等教育局の佐藤企画官から行政説明、「初等中等教育をめぐる最近の動向について」が話された。その中身は多岐にわたるが、第3期教育振興基本計画について、それから2点目が新学習指導要領について、3点目が学校における働き方改革について、4点目が幼児教育の無償化について、5点目が成年年齢の引き下げに伴う消費者教育等についてについて説明があった。詳しい内容は、協議会の資料が事務局に置いてあるので、確認いただければと思う。また、大部分は文科省のホームページを開いていただくと関連した資料が一括で出てくるので、活用いただければと思う。

その後、基調講演が「地域の未来と新学習指導要領 社会に開かれた教育課程

の具現化に向けて」と題して、上智大学の奈須教授から説明があった。話の中身は、学力観という話から始まり、結局文科省が例年行っている学力調査、いわゆるA問題のところからB問題、そのA問題は従来型の知識をどれだけ獲得したかという、その量によって実力をはかると。それから、もう一つは、B問題のほうのいわゆる活用能力、これを重視する。そういう立場でやると。結局、今回の学習指導要領の改訂では、そのB問題、応用力、活用力のほうにウエートが置かれていると。そういうことを考えると、従来からの大きな流れと変わりはないけれども、重点の見方が変わってきたのだということを、具体例を挙げながら説明があった。

その後、パネルディスカッションが行われ、新学習指導要領の趣旨を踏まえた教育の具現化に向けた教育委員会の役割ということで、山形県の米沢市から秋田県の由利本荘市の教育長から報告があった。その具体例はそれぞれでしたけれども、結局教育委員会の役割、1つは原理原則から考えていく必要があるのではないか。例えば学力観が変わった。その学力とはという、その素朴な疑問からもう一度教育委員会としてどういうスタンスでそれを捉えていくか。あるいは、その場合にどんな人間に育てたいのか、どんな子どもの姿を描くか。この辺になると学校だけではなくて、家庭、あるいは地域の全体の議論の中で学校教育も進めていかないといけないのではないか。そういう原理原則のところをきちんと踏まえて検討する。そういうことが必要だという話があった。

もう一点は、教育委員会は支援者であると。つまりどんな力をつけさせるか。それで、実際は各学校が主力として、主力となって指導に当たっていく。だから、主体は各学校だ。もちろん、その中には先ほど言った地域の方々、あるいは住民の願い、あるいは親の願い、そういったものも含めて考えていくこと。そういう話があった。

2日目は、分科会が行われて、私は「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた教育の展開」という分科会に出席した。ここも、山形県の米沢市、それから秋田県の由利本荘市の報告があった。その中で、結局3つの点が共通した話として出てきたかと思うが、1つはその学び方、授業のスタイル。これを、従来これまでのところと検討しないといけないのではないか。つまり課題設定が最初に来るべきであって、その課題をどう解決するかと、その間に新しい学びというものを埋め込むことができるのではないかということである。

もう一つは、知識の質を変える必要がある。つまり知識を活用するという、こちらのほうが今後ますます重要になってくる。活用するためには当然そのもとになる知識、これはきちんと身につけておかないといけないという話があった。そして、それを実際に動かしていく教員の日々の指導力、これが問われてくる。そんな話があった。

#### ①教育長より2件報告

- ・10月3日開催の校長会議と11日開催の教頭会議について報告する。

1つ目は、一般の教職員が校長、教頭に求めるリーダー像についてである。一例を出して管理職として自己分析する機会をしていただくように話した。具体的には、職員の声に耳を傾ける、問いかけや提案に対して明快に答える。受け入れ

てくれる対案を示してくる。2点目、職員がやる気を失わず、前向きな言葉がけと実践をみずからしていく。3点目、全体を見てしっかり話を聞いてくれて、判断力と実行力がある。4点目、部下の責任をとれるリーダー。こういったことがリーダー像として求められていますよという話をした。

2つ目、学校の教育は校長の姿を映し出しているということについてである。後期を迎えたので、先生方の子どもへの接し方、先生方同士の協力体制を捉えて、先生方一人一人の対応は校長先生のふだんの指導のあらわれであることを話した。具体例、例えば、1点目として授業でつまずいている子どもに具体的な手だてを講じているか。2点目、子どもの問いかけにきちっと耳を傾けて対処しているか。3点目、保護者からの問い合わせにすぐに答えているか。先生方同士で言えば、学年内で情報を共有できている。ほかの学年と協力体制ができている。職員同士が歩調を合わせて環境整備、生徒指導に取り組んでいる。こういうことができているかどうか、リーダーの職務能力、経営力が問われているという話である。自分の問題として捉えて、改善すべきことがあれば、早急に実践していただきたいという話をした。

3点目、業務の厳選と見直しについてである。来年度に向けて準備を計画的に行うことが大事である。例えば会議の時間の縮減、行事の見直しとスリム化、提出物の簡素化、教材の共有化などがある。具体的改善策を各学校で協議しながら、子どもたちにとっても、教職員にとっても有益な方策を講じるように指示をした。

## ②平成30年度8月市議会定例会について【教育総務課長】

・平成30年度8月市議会定例会について報告する。

8月市議会定例会は、8月27日から9月26日までの31日間を会期として行われた。一般質問については、9月3日から9月6日までの4日間、教育委員会関係の質問については11名の議員から質問があった。主な内容としては、エアコンの整備に関すること、教科書採択に関すること、佐倉図書館の施設整備に関することなど、多岐にわたる質問があった。質問の概要及び答弁の内容については、お手元に配付をさせていただいた答弁記録により確認をお願いできればと思う。

次に、議案及び請願についてである。教育委員会関係の市長提出議案では、議案第10号 平成30年度佐倉市一般会計補正予算が提出され、賛成多数で原案どおり可決された。また、請願については、請願第20号 使い易く文化の中心としての機能を果たせる佐倉図書館に建てかえるよう求める請願が提出された。これは、賛成少数で不採択となっている。

次に、議員提出議案については、発議案第1号 指定通学路に面する危険ブロック塀等の撤去及び軽量フェンス等設置工事補助制度創設を求める意見書、発議案第2号 子供の健康と学習環境を守る学校施設整備予算の増額を求める意見書。発議案第4号 佐倉南高校が三部制定時制に移行した場合の夜間部生徒の負担軽減を求める意見書、発議案第6号 児童虐待防止対策のさらなる強化を求める意見書、発議案第7号 学校施設や通学路におけるブロック塀等の安全性確保を求める意見書が提出された。このうち、発議案第1号、第2号、第4号については、賛成少数で否決をされている。発議案第6号、第7号については、全員賛成の上、原案のとおり可決をされている。詳細については、配布してある議決結果一覧をごらんいただければと思う。

③平成 30 年度第 64 回佐倉市幼・小・中学校図画書写作品展について【指導課長】

- ・平成 30 年度第 64 回佐倉市幼・小・中学校図画書写作品展について報告する。

10 月 3 日水曜日から 8 日月曜日の 6 日間開催した。今年度は、本作品展には書写 807 作品、図画 536 作品が出品をされた。当日、美術館のほうには一部会図工美術作品展の特選作品及び佐倉学子供作品展、それから教職員の美術作品を合わせて約 1,700 点の作品を展示させていただいた。6 日間の参加者は、延べ 9,700 人を超えて、大変好評のうちに幕を閉じた。

③全国学力・学習状況調査の結果について【教育センター所長】

- ・全国学力・学習状況調査の結果について報告する。

小中学校の正答率については、国語、算数、数学、理科ともに全国及び県の結果と同程度になっている。ただ、国語、算数、数学ともに B 問題については、正答率がそれほど高いものではなかったため、今後も 1 時間、1 時間の授業を大切にしながら、学力向上に努めていく必要があると考える。

課題としては、今申し上げた算数、数学と理科の記述式の問題で正答率が低かったことと無回答率が高かったということが挙げられる。今後も情報を正しく読み取ったり、根拠を明確にして話し合ったり、説明したりする活動を積極的に取り入れていくなどして授業改善を進めていく必要があると考える。

意識調査においては、先生は自分のよいところを認めてくれるという項目で、昨年度と比較して小中学校とも数値が大きく伸びている。これは、日ごろから肯定的な評価を心がけているという先生方の取り組みの成果だと捉えている。今後も引き続き子どもたちの自己肯定感を高める働きかけを進めていきたいと考えている。

③平成 30 年度佐倉学子供作品展について【社会教育課長】

- ・平成 30 年度佐倉学子供作品展について報告する。

第 3 回佐倉学子供作品展を幼・小・中学校図画書写作品展とあわせて開催した。概要としては、資料のとおり、各学校から原則 2 点以内の出品をお願いしている。出品数については、合計で 45 作品であり、昨年度と比べると 10 作品増加したところである。昨年度から佐倉学大賞、優秀賞の選考をし、表彰結果については資料のとおりとなっている。エントリーのあった 45 のどの作品も佐倉に関することを丹念に調べ上げ、実際に現場を訪れるなど力作ぞろいだった。見学した皆さんからの感想としては、「小学生は地域のことを一生懸命調べてすごい」、「絵画や書道とは一線を画しているが、どれも積み上げた努力のたまものだ」などだった。今後も、佐倉学の一層の普及啓発を図るため改善を加えながら実施したいと考えている。

資料裏面に出品作品の一部写真を掲載している。

③佐倉オランダ児童交流事業について【文化課長】

- ・佐倉オランダ児童交流事業について報告する。

佐倉日蘭協会主催のもとに行われるこの児童交流については、平成元年から始まった長い歴史がある取り組みであり、佐倉市とオランダの児童が 1 年おきにお互いの町や学校を訪問し合って交流を深めている。ことしは、オランダの子どもたちが佐倉を訪れる年ということになっており、明後日 19 日金曜日にオランダのアンネ・フランク・スクールの子どもたち 12 名と引率者 3 名、計 15 名が佐倉に来ていただき、27 日日曜日の帰国までの期間、市内のご家庭にホームステイをしながら

千代田小学校を中心に相互理解を深めるための交流を行う予定である。

日程の概略については、配付させていただいた資料のとおりである。21日の午後にウエルカムパーティー、22日から千代田小学校へ交流をしていただき、23日は一日訪問校の一つである印南小学校、24日は内郷小学校でそれぞれ体験をしていただき、また25、26日は、千代田小学校に戻ってイベントや授業などを通して交流を深めていただくというスケジュールである。27日の午前中に成田を立って帰国の予定である。

今回オランダの都合もあり、日程が例年より1週間ほど遅い来日となってしまったため、佐倉の秋祭りとか城麻賀多神社の奉納相撲といったイベントには参加できなかったのは非常に残念ではあるが、甲冑試着会や、今回初めての組子細工体験といった日本ならではのプログラムも組み入れている。佐倉でのホームステイや子どもたちとの交流を通じて、お互い思い出に残る、そして有意義な児童交流など考えている。

#### ④小中学校のいじめの状況について【指導課長】

・小中学校のいじめの状況について報告する。

9月末段階でのいじめの認知件数等について、認知件数は、小学校が220件、中学校が75件の合計295件報告があった。昨年度の同時期と比較をすると、小学校で119件の増加、中学校は9件の増加である。内容としては、冷やかしやからかいなど言葉によるものが約63%を占めている状況である。重大ないじめにつながる案件の報告はなかった。9月の特徴としては、小学校4年生、それから6年生、中学校1年生、このいじめの認知の件数が多く、この3学年で全体の6割を占めているという状況であった。ただ、相手が特定できなかったといった陰湿ないじめについては、9月の段階の報告は一切なかった。今後も、いじめに対するアンテナを高く持ち、事案の早期解決、早期発見、即時対応等を心がけてまいりたいと思う。

#### ⑤感染症について【指導課長】

・感染症について報告する。

9月19日から10月15日までの状況について、市内全体で溶連菌感染症が32人、感染性胃腸炎が17人出ている。インフルエンザは、6人今現在で出ている。そのうち南志津小学校ではインフルエンザの罹患者と発熱による欠席者が9日の連休明けに急増し、10月10日の水曜日から3日間、今年度市内で初の学級閉鎖を行ったという状況である。全体的には出席停止となる子どもたちの状況は、非常に少ない状況が今年度も続いているが、今後も手洗い、うがいの徹底を継続的に促してまいりたいと思う。

10月6日の土曜日に行われた佐倉幼稚園及び臼井小学校の運動会を最後に、今年度の運動会が全て終了した。組み体操による骨折者は、今年度もゼロということで報告があったが、リレーの走行中、あるいは騎馬戦等の団体種目の中において、例えば小指を踏まれて、骨折をしてしまったという生徒が今回7名いた。各学校のほうには、今年度の運動会でのけがの状況、これについていま一度整理を行い、来年度の種目選択の参考にしよう指導したところである。

#### 《報告事項についての質疑概要》

【委員1名より】

感染症の追加である。溶連菌と感染性胃腸炎が多い。感染性胃腸炎は、印旛郡内では定点で 1.19。これは、第 41 週、10 月 8 日から 10 月 14 日の週である。溶連菌は 1.25 ということである。それで、RS ウイルス、これは小学校よりも低い年齢の子なのだが、これが意外と多くて、定点当たり 1.88 になっている。乳幼児の感染症なので、小学校にはそこまでないと思うが、一応こういう傾向である。

インフルエンザに関しては、まだ流行とはなっていないが、少しふえてきたので、引き続き気をつけていただく。

はしかについて、9 月 27 日までで届け出が 9 件あった。ことしになってである。初発が、松戸市であり、これは新聞でも出ていたが、9 月 27 日届け出の後に 8 件報告受けているのだが、全部同じ方から感染している。最後の 9 件目が印西市で起こっているから、ちょっと近くはなってきたかなど。ただし、感染のものは松戸市ですので、少し離れているが、気をつけていただくほうがいいかと思う。対策としては、麻しん、風疹 2 種混合のワクチン接種をきちっと受けるということが大事である。もし小学校、中学校で出ていたら、至急に医療機関受診して保健所へ届けるということが大事である。

**【委員 1 名より】**

小・中学校の図画書写作品展について、7 番目の参加者の様子に、いいことが書いてあるのだが、一番下に、作品を指さして触るなど、参加者のマナーに課題が見られたということがある。各フロアに監視の方が見えると思うが、注意が行き届かなかったのか。

**【指導課長】**

一応入り口のところに毎年ご協力をいただいている方が、館内の様子を見て回り、中に小さいお子さんを連れながら見に来られているご家庭があるので、その辺でちょっとした部分で気になったのでということで書いていただいた。この作品展を邪魔するような感じのというような形ではなかったが、課題としてちょっと書かせていただいたというところである。

**【委員 1 名より】**

佐倉学子供作品展について、ちょっとこれは関連してである。表彰結果、これは小学校、出品数が小学生しかない。対象者は、小・中学校に在学する児童生徒となっているのだが、中学は一件も出品がなかったということなのか。

**【社会教育課長】**

佐倉学子供作品展の中学生の出品についてはなかったということである。

**【委員 1 名より】**

しかし対象者は中学生もある。これは、どうなのか。出してくださいと働きかけはしているのか。

**【社会教育課長】**

はい。

**【委員 1 名より】**

その出品しない理由というのは何か。

**【社会教育課長】**

働きかけについては、4 月、6 月、9 月など時期を捉えて学校への通知などをしてアナウンスしたところである。やはり諸活動が中学生等あり、今年度については

残念ながらエントリーがなかったと捉えている。

**【委員1名より】**

中学生のほうがより理解が深まるはずである。小学生のこのインパクトが、小さいうちに佐倉学になれ親しんでいただくというのはいいことだが、中学はちょっと寂しい感じである。これは、どうするのか、来年以降、まだこういう状態がずっと続くのか。

**【社会教育課長】**

次年度については、担当職員含めていろいろ知恵を絞りながら検討していきたいというふうに考えている。

**【委員1名より】**

中学に入ると、いろいろほかの行事が大変なのでここまで回らないかと思うのだが、ぜひ積極的に進めていただいて作品出していただけるように各学校にお願いしていただければと思う。

**【教育長職務代理人】**

それにかかわってだが、私もこれを見に行き、いずれも大変緻密に現地調査というか、下見をしてまとめている作品が多い。それをもとにして関係文献を見ているから、どうしても中学生のほうは、もっと深みに入りたいたいのだろうと思う。そうすると、時間的な制約がと、そんなことを思いながら拝見した。

**【委員1名より】**

小・中学校図書書写作品展のその裏面の新聞記事について、出典はどこなのか。どこの新聞社でいつ出ているのか。

**【指導課長】**

10月14日付の千葉日報の出典である。

**【教育長職務代理人】**

全国学力・学習状況調査について、この小学校あるいは中学校の共通なのだが、算数及び理科云々で正答率が低かったということは、これはきちんと考えたけれども、たどり着けなくて、例えば5という成果を導けなかったと。そういうふうに読めるが、この無回答率、これをどう読むのか。あるいは書いていないのは、全て無回答なのか。考えないでいるのも無回答であるし、考えても結論が出ないから書けなかったというのも無回答なのだが、この無回答率というのは、どう読めばいいのか。

**【教育センター所長】**

多分個々に時間切れですとかわからなかったとかということがあがあると思うが、我々のほうでは時間があるのに諦めてしまった子については、自分の持っている知識とか技能を何とか使って、少しでも、答えまで、最後まで行かないとしても、途中まで何とか努力する子どもに育てたいなど考えている。

**【教育長職務代理人】**

もう一点、裏面の児童生徒の全体的傾向、それから小学校にも共通するが、その最後のところで、多少の課題が見られたという。もう少し具体的にどういう課題が見られるのか。学習面では、予習・復習や自主的な学習に関して、多少の課題が見られた。これは、素直に読めば、予習、復習はやっているけれども、もっと十分にやれとか、あるいはその学び方、それについて本人はやっているつもりだけれども、

なかなか効率が上がらないとか、いろんな状況が出てくるのだが、もう少し調査結果の分析から課題というのは、具体的にはどういう分析になるのか。

【教育センター所長】

平日の家庭学習の時間が小学校では一、二時間程度という子が最も多かったのだが、家庭学習の時間で30分程度の子が2番目に多いということで、そこが多少の課題ということである。

【教育長職務代理人】

中学校はどうか。

【教育センター所長】

中学校では、やはり1時間から2時間の子が最も多くて、中学校に関しては、次に多いのは2時間から3時間ということなので、どちらかというところ、小学校の家庭学習に課題があるというふうに捉えている。

【教育長職務代理人】

その場合、多くの学校では傾向として、いわゆる宿題、これは減らすとか、なくすとか、あるいは各家庭にお任せするという、そういう指導も大分普及してきているように思っているわけだが、その辺との兼ね合い、もう少し別の言い方をすれば、家庭教育、家庭における学習は家庭に全部任せてしまって、学校のほうはどうでしょうかというのかどうかという、その辺の兼ね合いはどうなのか。

【教育センター所長】

やはり学力を向上させるためには学校だけでもだめだと思し、やはり家庭とともに子どもを育てていくということが大切だと思うので、学校から宿題は出すが、それはやはり家庭でもよく見てもらって、それでお互い確認しながら高めていければということが大事かなというふうに考えています。

【委員1名より】

今無回答率ということで、これは小学校から無回答率高いというのが続いていて、この記述を見ると、中学になっていきなり勉強が難しくなったので、そこがふえたのだという傾向ではないような感じなのだが、その辺はどうなのか。

【教育センター所長】

小学校のときの無回答率、中学校のときの無回答率がどのようなものなのかということは、はっきりと分析できないのだが、やはり時間切れであれば、いたし方ないかなと思うのだが、問題を見てすぐ諦めてしまって無回答にするということはちょっと問題があるかなというふうに捉えている。

【委員1名より】

それは、小学校も中学校も一緒なのか。それは、まだわからないか。

【教育センター所長】

はい。

【委員1名より】

明らかになって。その辺の分析も必要である。

【教育センター所長】

はい。

【教育長職務代理人】

先日の研修会でおもしろい話が出たのだが、60人乗りのバス、150人生徒がいる

と。バスは何台いるでしょうという問題を出したら、そうすると 150 割る 60 で 2.5 台であると。そうするとバスは 2.5 台、バスは……。そうすると 3 台である。その 2.5 というのは、何台いるでしょう、計算の上では正解なのだが、何台いるでしょうかには入らない。それは、誤答なのか、あるいは知識と現実が一緒にならないのか。だから、その辺のところは無回答にもつながっていくのか。つまり 2.5 という数値は出せても答えられないという。何かそんな今思いがちょっと出てきたのだが。

**【委員 1 名より】**

私も、この無回答のところは気になっていて、当然それぞれのお子さんの性格的な部分も含めてテストも時間内で問題を解くというのは、小学生は、6 年生であっても、できるできない、わかるわからないというよりも、性格で例えば緊張してしまって、ふだんのテストは、時間内でやるけれども、ちょっとふだんと違うところでプレッシャーになってしまうなど、いろいろあるのかなと。それで、各学校も、先生方も、時間内でこれはやらなければいけないから、わからないところでとまっていたはだめだよとかという指導をされているのではないかなと思うが、そういったところで、例えばゆっくりゆっくり、ゆっくりというか、もう考えて、考えて、考えて頑張っていくってしまって、無回答率がどうしても高くなってしまうお子さんも。それで、それを数字に全部入れてしまうと、全体的に見ると無回答がふえてしまうということもあるのかなと思う。学校のほうでは、そういうテストに対するやり方について、時間をうまく使いなさいとか、また戻るのよとか、全部やって終わったけれども、僕わからなかったから、私わからなかったから、戻らないで時間過ぎて待っているということがないように事前指導はされているのか。

**【教育センター所長】**

事前指導については、特に子どもたちがふだんやっているテストとは違うものなので、時間配分について 1 つわからない部分があったら、いつまでも考えずにちょっと飛ばして、最後また戻ってくるのだよという指導はするのだが、なかなかそれがなれていない子にとっては難しいところもあるのかもしれない。もしかしたら、それが無回答率の増加につながっている場合もあるのかなという気がする。

**【委員 1 名より】**

余りいい言葉ではないが、諦めるというところで、1 回たあっとやっていって、できなかったので、戻ってもきっとわからないだろうと安易に考えてしまうお子さんもいらっしゃるのかと思うと、そこをもう一歩進んで、時間まで一生懸命やろうねというので、もし無回答率がもう少しでも下がるのであれば、またさらに取り組みとしてはいいのかなと思う。とてもプレッシャーになっていると思うので、事前だけでなく、テストなれというところも含めて、日ごろから声をかけていってもらえると、正答率も上がるのかなとも思うので、ぜひ今後ともよろしくお願ひしたい。

**【教育長職務代理人】**

もう一点だけ。これは、文科省の全国調査だが、一方佐倉市は独自の調査を毎年行っている。その結果分析とこの全国の分析、これはクロスさせるとどんなことが見えてきそうか。

**【教育センター所長】**

市のほうの学力状況調査についても、結果を分析して各学校に周知して今後の授

業改善に役立ててほしいということでやっているのだが、クロス集計に関しては、まだ不足しているところがあるので、今後考えていきたいなというふうに思う。

**【教育長職務代理人】**

ぜひ。それでないと、いわゆる学んだことのある分野と全く初めての分野というのも出てくると思うので、その辺も重ねてぜひご検討いただきたいと思う。

**【教育長職務代理人】**

それから、もう一つ。この全国調査のほうに戻るが、この数値、これは毎年結果が出てくるわけだが、実際に考えると、その出題のいわゆる範囲というか、あるいはその出題の分野というか、これが微妙に変化していつている。毎年同じ内容ではない。そうすると、その数値を、去年は70だった、ことしは75だったと単純に比べていいのか。比べたらいけないのかもしれませんが、その辺の数値はどう読めばいいのか。

**【教育センター所長】**

昨年度の問題、今年度の問題の変更点というのは詳しく分析しているわけではないのでわからないが、センターとしては、昨年度の点数と今年度の点数を比較するところまではやっている。

**【教育長職務代理人】**

その辺がちょっとわからないのである。

**【委員1名より】**

オランダ交流事業について、質問というよりも感想に近いのだが、ことし1週間おくれて、例年だとお祭りの時期なので、ちょっと割合目玉かなと思う。やっぱり佐倉でこういう行事が行われてというのはオランダ側には、インフォメーションしてあるかと思う。向こうの事情でしかもおくれたということだが、その辺はどうか。

**【文化課長】**

これまでお祭りの時期に当たっていたので、オランダのほうも、非常に楽しみにされていたのだが、どうしても学校のスケジュールとの兼ね合いの中で、ことしについては1週間ずれてしまったというところがあった。それは、もうお互い残念なところである。

**【委員1名より】**

各小学校で交流をされるということなので、うまく工夫していい印象を持って帰ってほしいという感想がある。

**【文化課長】**

千代田小を中心に3校で交流していただくので、3校話し合いを持っていただき、いろいろ工夫してプログラムを組んでいる。充実した内容になればと考えている。

## 5 教育長閉会宣言

**※次回の日程の確認**

平成30年11月定例会 11月21日(水) 午後2時00分より  
社会福祉センター2階会議室